

# 産業革命の進展

## 本時の目標

日本における産業革命の進展を、資料をもとに多面的・多角的に考察し、石炭によって日本の社会がどのように変化したのか考え、表現することができる。

## 本時の評価規準

知識・技能	資料をもとに理解し、資料から、石炭が産業革命に与えた影響を読み取り、日本の産業革命のあらましを理解している。
思考・判断・表現	資料から、国内外の情勢を踏まえて、八幡製鉄所が北九州に建設された理由を分析し、表現している。

	具体的な学習活動・内容	使用する教材・資料/指導上の留意点
導入	①「八幡製鉄所」の写真から、本時の学習内容に興味をもつとともに、資料Aの製糸業の生産のグラフから、手工業生産と機械生産の推移についての特色を読み取る。(6分) ●学習課題 石炭によって、日本の社会はどのように変わったのだろうか。	①「八幡製鉄所」の写真から、燃料としての石炭の役割に気づかせる。また、明治時代に軽工業から産業革命が進展していったことに気付かせる。 ※写真資料は、次時以降の公害問題につなげることも可能 ※【①重工業②軽工業】 ※製糸業の生産量【①機械生産②手工業生産】
展開	②資料Bをもとに、石炭の生産量の推移を読み取る。(6分) ③石炭の生産量が増加した時期の国際情勢を、教科書等の年表を活用して調べる。(5分) ④資料C～Eを活用し、八幡製鉄所が北九州に建設された理由を考える。(18分) ⑤石炭の生産や産業の発達、日本の社会全体にも影響していることに気付く。(7分)	②石炭の生産が急増していることに気付かせるとともに、資料Aのグラフと比較させることで、機械生産の増加に比例して石炭の生産量が増加していることに気付かせる。 ③日本の国内外の情勢をまとめさせ、日清戦争の賠償金で八幡製鉄所が建設されたことを確認させる。 ④立地条件として、海外からの鉄鉱石の輸入に適していたことや、炭鉱が九州に多くあったこと、近代化を進めていく上で、石炭や製鉄が重要であったことに気付かせる。 ⑤石炭の重要性が高まった結果、鉄道網が広がるなど、日本の近代化にも影響を与えたことに理解させる。 ※「鉄道網の広がり」や、教科書等の資料も活用できる。
まとめ	⑥本時のまとめをする。(8分) ●まとめ ・石炭によって、日本の工業化が急速に進んだ。 ・石炭が、あらゆる分野で活用され、日本の近代化を支えた。	⑥本時の学習を通し、石炭が日本の社会に与えた影響をまとめさせ、石炭が日本の近代化に与えた影響を理解させる。 ※授業の中で出された意見(公害問題、労働問題等)に触れることで、次時以降の学習につなげることも可能

### ◆関連単元名

- ・社会科地理 「九州地方」
- ・理科3学年 「科学技術と人間(自然環境の保全と科学技術の使用)」
- ・技術分野 「エネルギー変換に関する技術」

### ◆参考情報&データ入手先

- ・資源エネルギー庁 日本のエネルギー

資源エネルギー庁




(出所)  
資料A:三和良一「近代日本経済史要覧」を基に作成  
資料B:三和良一「概説日本経済史 近代」を基に作成  
資料D:「筑豊石炭鉱業要覧」筑豊石炭鉱業組合、明治43年3月などを基に作成  
資料E:「八幡製鉄所八十年史」

## 学習課題

によって、日本の社会はどのように変わったのだろうか

2年 組 番 名前



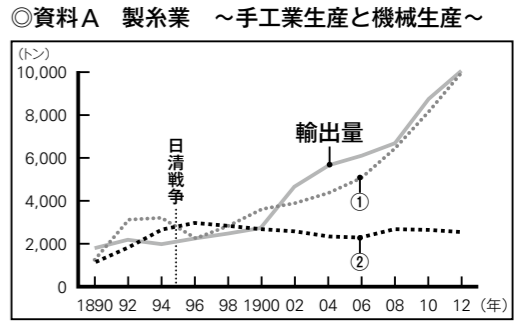
八幡製鉄所

① の発展

② の発展

燃料は

◎資料A 製糸業 ～手工業生産と機械生産～



◎資料B ( ) の生産量の推移)を見て気付いたことをまとめよう。

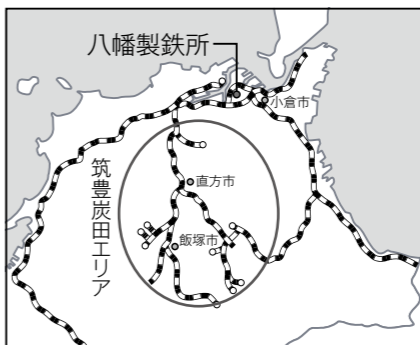
◆写真から読み取れること

◎資料B ( ) の生産量の推移)を見て気付いたことをまとめよう。

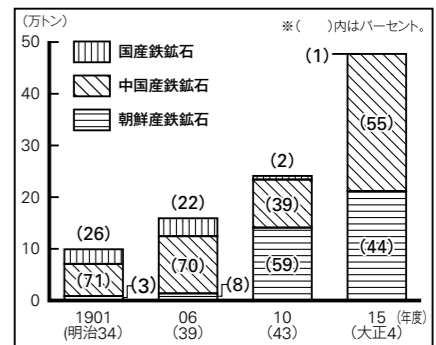
◎資料C 日本の国内外情勢

年代	できごと
1894	( )
1895	下関条約、三国干涉
1901	( ) 操業開始
1902	日英同盟
1904	日露戦争
1905	ポーツマス条約

◎資料D 筑豊炭田と八幡製鉄所の場所



◎資料E 産出地別鉄鉱石量(原料)



◆八幡製鉄所は、なぜ北九州に建設されたのか。資料C～Eをもとに考えてみよう。

1880年代後半の日本は、( )によって、産業革命が進展した時代だった。

### まとめ